

第5学年 総合的な学習の時間学習指導案

日 時	平成21年11月17日(火) 1校時
場 所	5年教室
児 童	男7名 女11名 計18名
指 導 者	中村 牧子
ゲストティーチャー	浪岡 正行(株式会社 浪岡時好堂社長)

I 大単元の構想

1 大単元名 おいしいお米を作ろう

2 単元について

子ども達は、昨年度まで毎年、全校で田植えや稲刈り等の米作り体験を行ってきた。収穫祭では、自分たちが収穫した米で作ったおにぎりやお餅を食べることにより、収穫の喜びを実感してきている。また、社会科の「米作りのさかんな庄内平野」という単元の学習を通して、農家の人々は「おいしい米作り」「安全な米作り」に力を入れ、様々な工夫や苦勞をしていることを学んできた。

本単元では、米作りについての調査や体験を通して、病気や害虫を防ぐ方法や米の種類などの自分の課題を追究させ理解を深めさせていく。また、米作りから販売までのさまざまな活動を行う中で、仕事に対する自分の考えを広げ、働くことの大切さが分かり、将来に向かって前向きな夢や希望を持つことができると思えば本単元を設定した。

3 指導の構想

本単元では、単元の導入において苗作りやしろかき等の見学・取材を通して、1年間の活動の見通しを持たせていく。それから、稲の観察や自分の課題を解決するための調査活動をすることで、おいしい米作りへの視野を広げていく。

次に、田植えから脱穀までの米作り体験を通して、農家の仕事をより深く理解させていく。また、米の販売体験までの一連の活動を通して、仕事の苦勞や喜びを実感させていきたい。

さらに、学習を通して学んだことを新聞等にまとめ他学年に発信することで、仕事や働くことに対する自分の考えが持てるように指導していきたい。

4 単元総括目標

米作りに関するさまざまな活動を通して、仕事に対する視野を広げ、仕事の苦勞や喜び、働く人の思いや願いを理解し、これからの生活に生かしていこうとする態度を育てる。

5 大単元の構想(60時間扱い)

第1小単元	見学・取材をしよう	(6時間)
第2小単元	観察・調査をしよう	(20時間)
第3小単元	お米を作ろう	(7時間)
第4小単元	お米を売ろう	(15時間)
第5小単元	まとめよう・伝えよう	(12時間)

II 第4小単元 「お米を売ろう」

1 単元について

(1) 教材について

これまで、稲の観察や、田植え、稲刈り等の活動を通して米作りについての理解を深めてきている。本単元では、米の販売に関する様々な活動を通しておいしい米作りへの視野を広げていくことをねら

いとす。そして、自分たちで作った米を自分たちの力で協力していくという体験から学んだことを生かしてまとめの学習へとつなげていきたい。

(2) 児童について

子ども達は、祖父母が農業に携わっている家庭が多く、普段から田や畑で働いている人、米や野菜が育っていく風景を目にしている。また、学校田で田植えや稲刈り、学級園での野菜作りをする等、子ども達にとって農業は身近なものである。しかし、実際に田畑の手伝いをしている子どもは少なく、「農業は大変そうだ」と思っている子がほとんどであり、職業としての農業に対する関心は低い。

これまでに子ども達は、稲の観察や、田植え、稲刈り等の活動を通して、おいしい米作りについての理解を深めてきている。

(3) 指導にあたって

○ 指導観

日ごろの子どもたちの様子を見ると、どんなことにでも興味をもち、進んで活動している。本単元では、自分たちで作った米を実際に販売することで働くことへの理解を深め、人と関わる力を育てていきたい。また、ゲストティーチャーとして、浪岡正行さんを迎えて、よりよい接客の仕方について実際に話を聞くことにより、接客のポイントを理解させ、販売への意欲を高めるようにさせたい。

○ キャリア教育に関して

米の販売について関心を持ち、計画を立て進んで準備をすることができるようにさせたい。(計画実行能力) また、米の販売に関わる施設の見学・調査を通して、働く人の願いや苦勞、喜び、接客のポイント等を調べることができるようにさせたい。(情報収集・探索能力) さらに、相手のことを考えて工夫して販売したり、他のグループのよさに気付いたりすることができるようにさせたい。(コミュニケーション能力) そして、販売体験を通して、働く人の苦勞や喜びが分かり働くことに対する理解を深めることができるようにさせたい。(職業理解能力)

2 小単元目標

- ・米の販売について関心を持ち、最後まで意欲を持って活動する。
- ・米の販売体験を通して、働く人々の苦勞や喜びを知る。
- ・米の販売に関わる施設等の見学・調査から学んだことや自分の気付きや考えを取り入れながら、米の販売をすることができる。

3 キャリア教育との関連

単元名	ねらいの観点							
	人とかかわる力		働くことの大切さに気づく力		自己の夢をつくり上げる力		自ら考え、粘り強く取り組む力	
	自他の理解能力	コミュニケーション能力	情報収集・探索能力	職業理解能力	役割把握・認識能力	計画実行能力	選択能力	課題解決能力
おいし		◎	○	◎		○		
いお	<p>【キャリア教育単元目標】</p> <p>◎農業に従事する人々、販売する人が誇りをもって働いていることに気付き、仕事に対する喜びや苦勞が分かる。(職業理解能力)</p> <p>◎より良い接客の仕方等の学習した事を生かして米の販売をする。</p>							

米 を 作 ろ う		(コミュニケーション能力)
	○ 販売活動に興味・関心を持ち、計画を立て進んで準備をする。	(計画実行能力)
	○販売に必要な情報を探し、調べて分かったことを活用する。	(情報収集・探索能力)

4 小単元の指導計画（15時間扱い）

小単元と活動計画	観点別評価規準
1 販売の計画を立てよう（5） ・販売についてのイメージをもち、「たくさんの人に」「おいしく」食べてもらうにはどうしたらよいか話し合う。（1） ・販売を行うために必要な準備について話し合い、仕事の分担を決める。（1） ・販売に必要な準備をする。（3）	○米の販売について関心を持ち、計画を立て進んで準備をすることができる。 （計画実行能力）
2 販売店の見学・調査をしよう（5） ・「あっぱ川」等の販売店の見学に行き、そこで働く人の願いや苦勞、喜び、接客のポイントなどを知る。（3） ・見学して分かったことを整理し、グループごとに次時の販売の練習の準備をする。（2）	○販売施設の見学・調査を通して、働く人の願いや苦勞、喜び、接客のポイントなどを調べることができる。 （情報収集・検索能力） ◎見学・調査を通して、働く人の苦勞や喜びが分かり、「働く」ことに対する理解を深めることができる。 （職業理解能力）
3 販売の練習をしよう（2） ・お客さんを満足させる接客の仕方を考え、販売の練習をする。（1） 本時 ・前時の反省を生かして、2回目の販売の練習をする。（1）	◎相手のことを考えて工夫して販売したり、他のグループのよさに気付いたりすることができる。 （コミュニケーション能力）
4 お米の販売をしよう（3） ・学習した事を生かして、「あっぱ川」で米の販売をする。（2） ・活動を振り返る。（1）	◎お客さんのことを考えて工夫して販売したり、他のグループのよさに気付いたりすることができる。 （コミュニケーション能力）

5 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・相手のことを考えて工夫して販売したり，他のグループのよさに気付いたりすることができる。
(コミュニケーション能力)

(2) 本時の展開

段階	学習活動	指導上の留意点と (○評価)	準備
導入 5分	1 前時までの学習を想起する。 2 本時の学習のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> お客さんを満足させる接客の仕方を考えよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの活動を想起し，販売への意欲を高める。 ・販売店の人から教えてもらった接客のポイントを確認する。 	カード
展開 30分	3 グループ毎に販売の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・3グループで交替で行う。 (各グループ5分) ・めあてを発表する。 ・次のグループがお客となり，販売をする。 ・見ていたグループが，よかった点，改善点などの意見を発表する。 4 キャリアサポーターからアドバイスを聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・活動をよりよいものにするためにアドバイスをすることを確認する。 ○グループのめあてに向かって，工夫しながら販売活動をしている。 ○他のグループのよさなどに気づき，発表することができる。 ・キャリアサポーターからのアドバイスを聞き，よりよい接客の仕方に気付く。 	米 アンケート用はがき レシピカード チェックシート GT
終末 10分	5 本時の活動を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・感想を発表する。 6 次時の活動を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・販売練習をしての感想や自分の頑張り，友達のよさ等に気付かせ，次時の活動につながる感想を持たせたい。 ・発表した児童を賞賛し，次時の活動への意欲をもたせたい。 	自己評価カード

(3) 評価規準と具体の評価規準

学習活動における 評価規準	具体の評価規準		支 援
	十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	
相手意識を持ち工夫して販売できる。	・相手のことを考えて声の大きさや話し方に気をつけて練習をする。	・相手のことを考えて声の大きさや話し方等に気をつけて練習をする。	・「お客さんを満足させる」というめあてを確認させて練習に取り組むようにさせる。
他のグループのよさに気付くことができる。	・他のグループのよさや改善点に気付き、発表することができる。	・他のグループのよさに気付き発表することができる。	・活動が進まない児童について助言をしたり、考えを個々に聞き出したりする。

